

公表

## 事業所における自己評価結果（児童発達支援事業）

事業所名	こども発達支援センターびーち		公表日 令和8年3月4日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的・状況・利用人数等に合わせて部屋を広げる、分室を使用するなどして対応している。</li> <li>活動によっては、園庭も積極的に活用している。</li> <li>同じ時間帯に利用する放課後等デイサービスの児童と外遊びや活動、トイレの時間をずらすなどし、人数を適切に保ちながら安全に充実した時間を過ごせるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容に合わせて、本館と分室を上手に使い分け、そこで職員を適正配置で保つ体制を整えながら療育を行っている。</li> </ul>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要性に応じて多めの人数を配置している。</li> <li>職員が比較的多めにいるので、振休や有休が入っても職員体制を維持することができる。</li> <li>体調不良や家庭内に感染症の方がいる場合なども、代わりの職員がいるので、安全第一に体制を組みやすい。</li> <li>職員配置を日ごとに確認している。</li> <li>状況に応じた配置数に加え、多職種連携に努めている。</li> </ul>	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもにとって、刺激が入りにくい色やカーテン等を使用し、落ち着いて過ごせる環境づくりを心がけている。</li> <li>視覚的に絵カード、タイマー、パーテーション等の使用をすることで理解しやすい環境づくりを行っている。</li> <li>ロッカー、椅子、机、タオル掛けに自分の名前とマークを設け、文字が読めなくても自分の物を把握する、ひらがなに触れる機会を作っている。</li> <li>子どもに合わせた机や椅子の高さ、踏み台の使用など調節を行なっている。</li> </ul>	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、療育後、帰宅前と少なくとも3回は掃除・消毒を行い、衛生面を管理している。室温・湿度・採光などもその都度確認しながら適切な環境づくりを心がけている。</li> <li>子どもたちの活動にあわせて、広い空間にしたり、室温の調整をしたり、喚起を行ったりと、不具合なく過ごせるように意識している。</li> <li>机の角にはクッションの設置等を行い、安全に過ごせるようにしている。</li> <li>温度計の設置、気温に合わせて適宜エアコンや換気で調節を行なっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育室の埋め込みエアコンの掃除を定期的に行っているが、部分のみの清掃になってしまっているので、業者に掃除依頼を行っていく等検討する。</li> </ul>
業務改善	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調不良時やクールダウン等目的に応じて対応出来るスペースがあり、職員も多めに配置することでゆとりをもって対応できるようにしている。</li> <li>パーテーションの使用や、別室・分室の使用ができるようにしている。</li> </ul>	
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>症例検討やミーティングなどで共有できている。</li> <li>朝のミーティングでの提案や支援後の振り返りで確認し、日々業務改善を意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の目標管理表でも自分に出来る範囲での業務改善を適宜実施し、チーム支援に活かせるようにしていく。</li> </ul>
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に1度アンケートを実施し、保護者の方からの意見などに早急に対応できるよう心がけている。</li> <li>また、日頃のやりとりの中で、意見や希望を聞いた際には、その都度取り入れられるか検討し、やれることはすぐに取り入れている。難しい際も、部分的にでも取り入れることができないかその都度検討している。</li> </ul>	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の全体ミーティングや部門ごとのミーティングで情報共有をしている。</li> <li>療育時間前後に現状の把握や意見を交換できる時間を設けている。</li> <li>管理者との面談や職員会議、ミーティングなどでのやりとり、業務改善を行っている。</li> <li>小さなことでもミーティングで意見をあげやすい環境になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰に話しやすいかは人それぞれなので、複数の人に相談できる環境を意識していく。</li> <li>よりよい療育につなげていくため、職員間の話し合いの機会を増やしていきたい。</li> </ul>
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部の方の事業所見学や実習生の受け入れにより外部評価、業務改善につなげている。</li> <li>市の担当の方に、中核機能事業所としての役割などについての意見や評価をもらい、改善に活かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関の方からも気軽に意見を言ってもらえるよう、今後も関係性構築に努めている。</li> </ul>

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議や勉強会等で研修報告やアウトプット等で多方面からの知識、多職種からの意見を共有することができている。</li> <li>・法人内研修でも経験年数や専門性によって必要な研修の機会を与えられている。</li> <li>・外部研修にも積極的に参加している。受けたい研修についても情報共有や希望を取るなどし、参加出来た研修においては伝達研修で職員全体へ共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての研修の機会を増やし、専門職としての知識習得や質の向上を目指している。</li> </ul>
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で話し合い、実施している内容に沿った支援プログラムが作成できている。</li> <li>・ホームページでの公表、保護者にも支援プログラムを配布し、いつでも見ることのできる環境になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その都度、状況によって支援プログラムを見直してはいるが、保護者の方の生活にも影響を与えることがあるので、早めに周知できるようにしていく。</li> </ul>
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学時やモニタリング時期に保護者から聴き取りを行ったり、実際に子どもの行動観察をしたりする中で、支援計画を作成している。時には、知能検査や発達検査を行うことにより、より細かくアセスメントをとることもある。</li> <li>・それぞれのチームや専門職の視点など様々な視点から子供の様子を捉え計画書の作成を行っている。</li> </ul>	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育に関わる職員の視点、意見等も反映され作成している。</li> <li>・支援計画作成の際に、各種専門職にも確認をとりながら様々な視点を入れて作成している。</li> <li>・その都度スタッフ全員に周知し、共通理解を図れるようにしている。</li> </ul>	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の全体やチームミーティングの際に、変更になった支援計画を共有したり、方向性が変わった際にはすぐに確認を行ったりすることで、臨機応変に対応ができている。</li> </ul>	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学時には必ずアセスメントをとり、発達の段階や課題を確認している。また、生育記録、日々のケース記録、年度切り替え時に行うアセスメントなどにより変化する子供の状況をその都度把握できるように努めている。</li> <li>・年齢に応じた簡易検査（KIDSや園城寺など）なども併用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VinelandⅡなども検討している。</li> </ul>
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5領域を意識し、支援計画や日々の支援を行っている。多職種で支援に携わっているため、それぞれの視点で考え、共有することが出来ていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が大勢いるので、誰もが理解して対応できるように職員の質の向上もあわせて考えていく。</li> </ul>
適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書面に記載したり、お互いに意見を出したりしやすい環境を作っている。</li> <li>・活動ごとに担当を別にするすることで、負担を少なく楽しみながら立案できるようにしている。</li> <li>・活動に応じて多職種で対応している。</li> <li>・行事等は何を行うか意見を出し合い、職員全体で共有、分担しながら進めている。</li> <li>・OT、ST、保育それぞれの視点や、それぞれに特化した活動プログラムを取り入れている。</li> <li>・保護者からの案も取り入れるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多方面からのアプローチを意識しながら、活動プログラムに取り入れていけるように職員間で確認していく。</li> </ul>
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じた活動や行事、流行の物などを情報収集し、活動に取り入れている。</li> <li>・年齢に応じた活動内容になるよう場所や道具をお子さんに合わせて対応している。</li> <li>・前年度の物も振り返り、改善点などある場合には変更したり、新しい物を取り入れたりしている。</li> <li>・専門職でチームを組み、それぞれのチームで活動内容を提案し、月ごとの活動プログラムを組み、実践している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポーターを増やせるように意識していく。</li> </ul>
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの発達段階に合わせて個別療育も実施している。</li> <li>・他施設との兼ね合いや医療でのリハ段階に合わせて、個別療育の取り入れ方を決めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの発達段階や課題に合わせて、その都度保護者とも確認をとり、臨機応変に対応できるようにしていく。</li> </ul>
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティングで一日の流れをタイムスケジュールで示し、リーダーの先生を中心に活動内容の共有や情報共有をしている。</li> <li>・役割分担を明確にし、スムーズに支援ができるようにしている。</li> </ul>	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティングを行い、気付きや改善を話し合いその後の対応の仕方を共有している。</li> <li>・打ち合わせに参加できなかった職員にも情報共有できるように、後日漏れなく個別に伝えている。</li> <li>・必要に応じ職員同士で声をかけ、ミーティング以外でも話し合いをする場を設けている。</li> <li>・保護者との振り返りで伝えられたことも含めて、情報共有を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間のズレや外部の仕事が重なると十分にできない日もあるため、後からでも情報を共有できるように声を掛け合っていく。</li> </ul>

関係機関や保護者との連携	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100	0	・毎日のケース記録により情報の共有、支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	・支援計画作成前にはモニタリングを行い、必要に応じて聞き取りを行っている。また、計画変更の有無にかかわらず、その都度状況に合わせて支援内容の変更や個別に話をする機会を設けている。	・相談支援員との情報が十分共有できていないことがあるので、意識して働きかけ、もれない情報共有を行えるようにしていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	・児発管をはじめとし、その子に関わる職員がなるべく参加することで、関係機関と連携を意識して図っている。	・相談支援事業所によっては、担当者会議の頻度が少ないので、今後増やしてもらえるように働きかけていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100	0	・県の地域支援マネージャーをしていたり、教育委員会にも参加したりしているため、医療機関や区市町村や保育・学校などの連携は密にとれている。 ・施設内で嚙嚙医に頼み、内科健診を年に4回行っている。 ・こども家庭センターとの連携、必要に応じて医療機関との情報共有を行なっている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100	0	・訪問支援を同時に行うことで園の様子や困り感等を確認し、共通認識の上で支援を行っている。 ・幼稚園入園の際には事前にびーちでの様子を見に来てもらったり、情報提供書を作成し生活や発達面での課題を含め、子どもたちを理解してもらったりしている。 ・訪問支援を中心に関係機関との情報共有を行っている。必要に応じて関係機関の方の施設見学なども受け入れている。 ・年長グループでの学習、午後のグループ学習、就学・就園説明会など移行に向けた支援を実施している。	・相手側の理解や受容がないとできないことなので、地域で受け入れられる施設づくりを意識していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100	0	・就学に向けては年中の段階からアナウンスし、スムーズな情報共有や検査結果、診断書の取得を促している。 ・年長児の特性や必要な配慮などの情報提供書を作成し、保護者に内容確認をしたうえで、入学予定の小学校に提出し安心して就学に向かえるようにしている。 ・情報提供書を入学予定校に渡し、入学後も安心して環境づくりを後押ししている。	・支援級や支援学校に行くお子さん以外にも、必要であれば情報提供書を作成して、教育委員会や小学校に提出しているため、今後も継続して行えるようにしていく。 ・環境調整が上手くいかないと、不応になりやすいので、引継ぎを意識していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	100	0	・市外の事業所と連携し、地域だけでなく事業所全体の質の向上を意識している。 ・県のマネージャー業務を受託し、他の事業所からも相談を受けている。スキルアップ研修も実施している。 ・市内の通所事業所とは年に数回合同で行事を開催し連携を図っている。 ・県内の児童発達支援センターで情報交換会を実施している。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100	0	・研修に参加する機会を設け、出た職員から出た職員に伝達研修を徹底し、全体に共有している。また、県の地域支援マネージャーとして、外部向けに研修を開いている。	・専門家を呼んだり、外部研修に参加するなど今後も療育の質の向上に努めていく。また、施設内研修や法人研修の充実を意識していく。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100	0	・さくら市の自立支援協議会だけでなく、県の地域支援マネージャーとして、各地域の自立支援協議会にも参加し、地域ニーズの把握や今後の課題を共有している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100	0	・児童センターや図書館、福祉祭りへの参加、電車の乗車など地域の子と関わる機会をつくっている。 ・クリスマスチャリティミュージカルに参加している。	・今後は地域の方も参加できるこどもまつりや園庭開放、行事の企画なども検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	・送迎時の振り返りで発達の状況や課題について話し、共通理解ができるようにしている。 ・送迎の時間以外でも保護者と話をする時間を多くとれるように心掛けている。 ・電話のみでなく、LINEでいつでも相談、連絡ができるようにしている。 ・朝の受け入れ時や振り返り、モニタリングの際に、その都度お子さんの状況を確認している。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	・計画的にペアプロ、ペアトレを行い、家族の方の研修、交流、情報提供の場を設けている。	・平日の昼間であるに限られた方の参加になってしまうが、保護者の希望があれば別日で個別にお話ししたり、資料をお渡ししたりしている。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	・初回利用時や変更点などがあった際にはその都度説明を実施している。 ・利用契約時に運営規定、契約書、重要事項説明書により説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	・支援計画立案の際には保護者の方との面談や電話やラインで相談や確認を進めている。家族のニーズとお子さんの発達課題がずれていることもあるので、共通認識を図るように意識して取り組んでいる。 ・支援者だけの視点にならないように随時、利用児や保護者と話し合いを行い確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100	0	・基本的には送迎時の対面にてお話しできるようにしている。祖父母や子育てサポートの方が送迎しているケースもあるので、メモやラインにて、伝えられるように心がけている。	・祖父母や子育てサポートの方が送迎しているケースもあるので、メモやラインにて、お手紙を書き、伝えられるように心がけているが、実際に伝わっているか心配に感じるところはあるので、その後の確認も意識して行えるようにしていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	・利用時の送迎やラインなどでいつでも相談、愚痴を話せる環境を心がけている。希望があれば、個別にお話しする機会も設けており、それぞれのご家庭にあった相談スタイルを作れるようにしている。 ・個人懇談の案内を全員に配布し、必要に応じた助言や支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100	0	・夏祭りの時にはきょうだいも参加してもらい、他のきょうだいの交流を行うことや、きょうだいも楽しむことのできる場を設けている。 ・保護者通園や父子通園の中で交流する機会を作れている。(月2回程度) ・保護者向けの勉強会(各種専門領域やペアプロ、ペアトレ)を開催し保護者同士での関わりが持てるようにしている。 ・保護者会も開催し交流する機会を作っている。 ・きょうだい児を対象とした勉強会を開催し、学ぶ機会や交流する機会を設け支援を行っている。 ・発達障害びあサポーターを招き、びあカフェを開催、保護者同士の交流できる機会を作っている。	・きょうだい児勉強会を今後も開催していけるよう日程を調整していく。 ・今まで参加することができなかった保護者の方も参加したいと思えるような保護者会を企画していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	・その都度保護者の声や状況に耳を傾け、児発管や管理者も含め、丁寧な対応を心がけている。	・普段から何でも話しやすい関係づくりとゆとりある施設運営を心がけていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100	0	・毎月びーち便りを発行している。また、日々の振り返りだけでなく写真や動画の共有をラインや玄関の掲示で行い、療育内容や成長をお互いに喜び合えるようにしている。	・施設内の人だけでなく、外部の人にも情報を伝える機会を増やせるように、SNSの活用方法を検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	・プライバシー承諾書の内容を確認できる一覧表を作って把握している。 ・写真、制作物の扱いなどその都度保護者に確認を取っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	・聞かれにくいことや家での過ごし方など、場合によっては別室やラインなどで心理的安全を確保したうえで、一人一人のニーズに合わせてやりとりを行っている。 ・必要に応じて手話やジェスチャー、マカトンサイン、筆談等でのやりとりを行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100	0	・福祉祭りや他事業所の行事など、地域のお祭りや行事に参加し、地域の方と関わる機会を作っている。 ・児童センターでも子育て相談や勉強会を開催し、地域に開かれた施設を心がけている。	・施設行事や勉強会など、地域の子やご家族も参加できるような形で検討していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0	・年度初めに緊急時対応についてお便りを渡し、共通理解を図っている。 ・地震や火事などを想定した避難訓練を月一回行っている。	・感染マニュアルや防犯マニュアルなど、契約時に確認しているが、在籍年数が長い方は、時折確認できるような体制を考えていく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100	0	・BCPをもとに地震、火災などを想定し月に1回訓練を実施している。活動の中で避難訓練の日を設け、緊急時に対応できるように子どもを含め訓練を実施している。 ・職員会議の中でBCPの確認、見直しを行ったり、備蓄の期限確認やポータブル電源の点検を定期的に行ったりしている。 ・風水害の訓練の際には、市にも報告し、地域での在り方を検討している。	・年度切り替え時には、新規職員も含め、担当現場や担当役割を確認していく。

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用前のアセスメント時に病気の有無や対応を確認している。年に4回の健康診断や各家庭の定期通院の後も必要であれば、服薬などの変更を確認して対応している。</li> <li>・必要に応じ服薬指示書等を提出してもらい、看護師とも対応ができています。定期的な受診の確認も行っている。</li> <li>・てんかんの子には、どのレベルで救急車を呼ぶかなども含め、家族と共通認識を図っている。また、てんかんを起こした後の経過観察も含め、情報共有を図っている。</li> <li>・看護師も交えながら、複数人でチェックし確認している。</li> <li>・服薬が必要な場合は服薬指導書などを提出してもらい、服薬の使用法や処置方法を保護者と確認し対応している。</li> <li>・必要に応じて対応のマニュアルを作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の発達や状況にあわせ、服薬量の確認などを定期的に行っていく。</li> <li>・保護者と救急搬送時の対応を確認し、緊急時対応マニュアルを作成し、どの職員でもすくに対応できるようにしている。</li> </ul>
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーをもっているお子さんに関しては、昼食時にほかの子と机を離したり、掃除を随時行ったりして、他者との間わりの中でも間違いがないように気を付けて対応している。</li> <li>・保護者の方とよく確認を行いながら対応方法や変更がないかを確認し、職員で情報共有を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢や体格など、その子の状況に合わせて保護者と確認をとり、アレルギー対応や食事量などを調整していく。</li> </ul>
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生委員会が中心に安全計画に基づいた研修・訓練を行っている。</li> <li>・熱中症や雪道の歩き方など安全な行動をとっていくための情報共有や実践を会議の場などで定期的に行っている。</li> </ul>	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の実施などについてびーち便りや振り返りの際に周知している。また、契約時や年度切り替え時には、必ず避難場所などを書類にて周知している。</li> </ul>	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットノートの記載だけでなく、ミーティングの場などでも共有をし、対策について話し、次に繋げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなときにヒヤリハットになるのかを職員会議や施設内研修で常に学び、ヒヤリハットにならないように意識していく。</li> </ul>
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議にて全体で共有されている。</li> <li>・外部研修への参加、職員勉強会での研修を定期的に行っている。</li> <li>・虐待防止、適切な支援の仕方、メンタルヘルスなどを合わせて研修している。</li> <li>・虐待・性犯罪防止の為、監視カメラの設置をしている。</li> </ul>	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束などの可能性があるお子さんに対しては、どう対応する予定かなどを契約時に確認し、保護者の意向も確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束が行われたことはないが、今後を踏まえ職員間で話し合い保護者への説明や計画に記していきたい。</li> </ul>